

リサーチパーク 開発の大失敗

15年たっても土地売却すすまず

産業用地(幸袋)

税金

47.7 億円

投入

日本共産党が追及



日本共産党の川上直喜市議(写真)が、9月議会で明らかにしました。

鯉田工業団地開発(24億7000万円)へ炭鉱跡地(三菱マテリアル保有・42ヘクタール)の買収が近づきました。しかし、企業誘致にはまともな展望はありません。土地が売れなければ「税金を投入すること」を、斉藤市長がついに認めました。「大変なムダづかいになるのでは」と不安が広がる中、リサーチパーク(幸袋・産業用地)開発の大失敗の穴埋めに、47億7000万円もの税金投入があったことがわかりました。日本共産党の川上直喜市議(写真)が、9月議会で明らかにしました。

24億7000万円

企業誘致の困難を承知のうえで

リサーチパーク(関連事業アメニティパークを含む)は、情報産業の集積を旗印に、飯塚市が1992(平成4)年着工し、翌年完成、分譲を始めたものです。ソフト業界が複合不況に陥り、企業誘致が困難なことを承知の上でした。かかった費用は支払利息を含めて49億2100万円。

総事業費の行方

(49億2100万円)
日鉄鉱業グループ・幸袋工作所 24億7000万円(土地代)
福岡銀行 8億4800万円(支払利息)
ゼネコン等 10億1800万円(造成費)

土地を売って元をとるといっていましたが、15年間に売れたのは、当初の9区画のうち2区画(面積6.58%)だけです。収入は1

億5100万円しかなく、市は、穴埋めに税金47億円7000万円をつぎ込んだことを認めました。

歴代市長らに何らかの責任を

「大失敗」は、だれの目にも明らかです。歴代の市長や幹部に何らかの責任を求めるのは、当然ではないでしょうか。ところが、斉藤市長

飯塚市議団
ニュース

<http://www.jcp-iizuka.jp/>
No.17 2007年9月 議会報告
日本共産党飯塚市議団 連絡先)飯塚市新立岩5-5
電話(22)5500 日本共産党嘉飯地区(22)6783

「歴代幹部に責任を求めるべきだ」

鯉田工業団地開発

につぎすすむ

「失敗ではない」といなおり

斉藤市長ほか
居ならば幹部も
反省なし



リサーチパーク開発

バランスシート 市資料から作成

A 事業費	38億9200万円
リサーチパーク	28億4600万円
アメニティパーク	10億4600万円
B 支払利息	10億2900万円
C 土地売却収入	1億5100万円
D 税金での穴埋め	47億7000万円
リサーチパークのみ	34億4500万円

は、「企業誘致ができれば、土地の売却収入も入るし税金も増える。失敗ではない」といなおり、責任を求める考えはないと答弁しました。

しかし、15年かかっても売れなかったものです。残地がすべて売却できたとしても、回収不能が31億円もあることを、市担当課が明らかにしています。かりに、税金など毎年5000万円の収入としても、元を取るまで62年かかる計算です。これが大失敗でなくてなんでしょうか。

鯉田工業団地開発が失敗してもだれも責任とらないのか

「失敗ではない」との居直りは、鯉田工業団地開発が同じように失敗して巨額の税金を投入しても、市長をはじめ幹部はだれも責任を取らない こういう立場ということになります。

リサーチパーク開発破たんを歴代幹部に求めるとともに、無責任で展望の見えない鯉田工業団地開発は凍結し、年内を予定している用地買収は見送るべきではないでしょうか。